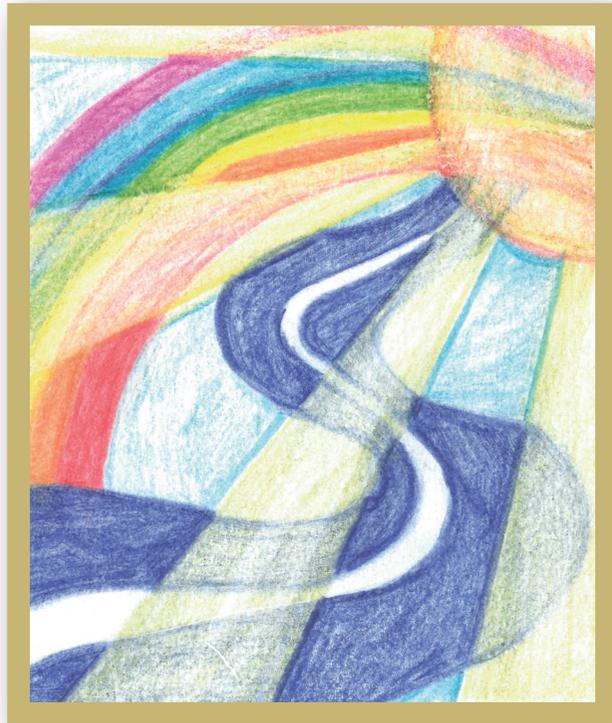


医学部への道 2020

インタビュー……3

全国医学部長病院長会議 山下英俊会長

「公共財としての医療」を支える人材を育てていきたい」



医学部生の
今だからできるアドバイス……16

全82校を網羅

医学部合格への必須科目
入試データの読み解き方……6

匠が教える傾向と対策……13

注目予備校レポート……20

医学部予備校最新Topic……22



オンリーワンの指導があなたを合格に導きます

医学部

合格体験記

東大螢雪会

7つの
merits



究極のマンツーマン指導で 合格作戦スタート!!

- 1 講師はプロ講師と現役東大生
- 2 あなたのスケジュールに合わせて受講できます
- 3 ご自宅、教室、インターネット経由で受講できます
- 4 いつでも入会できます
- 5 どんな科目でも1科目から受講できます
- 6 短期間だけの受講ができます
- 7 個別面談などによる充実したフォロー

創立40年の
信頼と実績

苦手科目が得意になり、得意科目はより得意になりました。



河方 孝裕君 成蹊高校卒〈高卒部〉
日本大学(医)、帝京大学(医)、
聖マリアンナ医科大学、埼玉医科大学、
獨協医科大学 合格

医学部を諦めていた僕が「医学部合格」を実現しました！



渡部 太良さん 東洋高校卒〈高卒部〉
東邦大学(医)、東京医科大学、
岩手医科大学(医) 合格

オンライン授業と教室授業の併用で、志望校に合格しました。



佐藤 文乃さん 湘南学園高校卒〈高卒部〉
東京医科大学、国際医療福祉大学(医)
日本大学(医)

生徒は富山、講師は東京、
オンライン授業で
6校に最終合格しました！

M.A.さん 富山中部高校卒
岩手医科大学(医)、金沢医科大学、北里大学(医)、
聖マリアンナ医科大学、獨協医科大学、福岡大学(医)

オンライン授業とは
インターネット回線を利用したマンツーマンの授業です。全国どこにお住まいであっても、究極のマンツーマン指導を受けることができます。



無料教育相談
随時受付中

当会の豊富な指導実績に基づいて、望ましい学習の進め方を具体的にご提案させていただきます。ご自分の学習の進め方に少しでも不安をお持ちの方はご相談ください。



主要医学部の予想問題を
無料プレゼント！

詳しくはお問い合わせください。

プロ講師・現役東大生による完全個人指導塾&家庭教師派遣

Today Keisetsukai

東大螢雪会

四谷
本校

〒160-0007 東京都新宿区荒木町12-2 アミティ四谷

【最高の講師】

☎0120-3150-54

◆丸ノ内線四谷三丁目駅徒歩6分 ◆都営新宿線曙橋駅徒歩4分

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333 江戸川橋アクセス

☎03-5225-1317

◆東西線神楽坂駅徒歩6分 ◆有楽町線江戸川橋駅徒歩4分

神楽坂
校



「公共財としての医療」を支える人材を育てていきたい

全国医学部長病院長会議 山下英俊会長（山形大医学部長）

——全国の医学部をまとめるAJMCでは、今後の医学部入試のあるべき姿をどう考えていますか。

山下 一連の問題を受け、嘉山孝正先生（山形大医学部参与）を委員長とする小委員会を設置し、「大医学部入学試験制度に関する規範」（次頁）を策定しました。規範では、これまで医学部入試が辿った変遷を詳細に考察した上で、これからの医学部入試は「公平性」と「医療人確保」の2つの尺度に沿って行われていくべきである、という方針を明確に打ち出しています。

各大学の建学の精神に則った入試のあり方を否定するものではありませんが、「公平性」「医療人確保」の2つの尺度を上回る概念とはなりえないと考えています。今後の医学部入試においては、今回の規範が揺るぎない決定版となります。

——理想的な姿だとは思いますが、公平性と医師確保の両立は現実的には難しいではありませんか。

山下 難しいことは確かです。例えば性差における公平性という観点では、女性医師が多くなってもキャリアをしっかりと積んでいけるような制度設計が不可欠になります。卒業後いかに女性医師が活躍できる環境を整えるか、保育所をたくさん作ればすむという話ではありません。医学部や医療界にとどまらず、国全体で考えていかなければならない問題なのです。

——社会環境の整備も重要ということですね。

山下 ただし規範では留保条件を一切付けることなく、性差で一律的な差異を設けることや点数操作は不適切、と明言しています。医学部入試においては環境の整備を待つことなく、公平性を厳守すべきというメッセージです。

一連の医学部不正入試問題を大学側はどう受け止めているのか。全国80の大学医学部・医科大学の医学部長・病院長クラスが参加する全国医学部長病院長会議（AJMC）の山下英俊会長に、医学部入試のあるべき姿と医学部教育の今後について話を聞いた。

●地域枠でも一般枠と同じ入試レベルを

——臨時的に定員増加を認める「地域枠」が、2020年度入試から別枠方式に限定されますが、地域枠の入試はどうあるべきでしょうか。

山下 これも規範に明示しています。地域枠であっても、卒業時には一般枠の学生と遜色ないように医師としての質を担保する必要があります。そのため入試の科目を減らしたりするのはなく同じレベルで行い、性差についても一般枠と同様の規範を当てはめなくてはなりません。ただし浪人年数については、社会に説明可能な範囲で、入試要項に明確に記載すれば実施可能と考えます。

——地域枠が創設された2008年以降に入学した医師が医療現場にどんどん入ってきています。

山下 女性医師における課題と同じように、地域でキャリアを積める制度設計がカギになります。医師であれば地域にいてもいろいろな専門を学びたいはず。専門医を取れる環境を保証しながら、地域医療に従事してもらう仕組みが大切になると思います。しかし医師の自主性に依拠しているだけでは医師



山下 英俊（やました ひでとし）：1981年東大卒。東大医学部講師、ウプサラ大留学などを経て99年山形大教授、2010年から山形大医学部長。

不足は解消されません。地域医療には、やはり「医局医療」が求められているのではないのでしょうか。医師の生涯にわたるキャリアを見通した上で、「あの地域の病院に3年間行ってください」と派遣する。戻ってきたら国内・海外留学など希望を叶えてあげるような仕組みがないと回っていかないと思います。誰かが100%背負うのではなく、みんなで少しずつ負担を分け合うことが大切なのです。

——それを形にしたのが蔵王協議会ということでしょうか。

山下 「山形大学蔵王協議会」は嘉山先生が医学部

「大学医学部入学試験制度の規範」(概要)

- (1) 医学部入学試験においては、女性という属性を理由として合格基準に一律的に差異を設ける試験制度を施行してはならない。
- (2) 一般入学試験においては、入学者選抜に際して浪人年数(年齢)という属性を理由に一律的に判定基準に差異を設ける試験制度を施行してはならない。
- (3) 内部進学枠、同窓生子弟枠等の選抜にあたっては、人数や選抜法などの選抜方法を入試要項に明記し、その内容が①「公平性」、②「医療人確保」に則り、内部進学枠や同窓生子弟枠等を行うに当たってのアドミッションポリシーが国民の容認が得られ、さらに、個人が金銭を含むながしかの利益を得ない制度を担保し、公正に行われることが必須。
- (4) 推薦入試枠、学士編入枠、帰国子女枠等を採用するには、それぞれの評価方法をどの程度の比重で扱うのか等を具体的に示すことが求められている点を考慮し、入学試験要項に、試験内容を明確に記載することが必要。
- (5) 地域枠については、学生の確実な確保のため一般枠とは別に公募するが、その枠内での合否判定法は一般枠と同じ制度で運営されなければならない。しかし、その他の要件に関しては、社会に説明できる範囲内で、入学試験要項に明確に記載すれば施行できる。

長時代の2005年に山形大が中心となって立ち上げました。地域医療構想に基づき、医師を教育しながら適正に配置し、地域に定着させていく取り組みを行っています。例えば地域からの医師派遣要請は、各医局ではなく大学が一括して受けた後、第三者も加えた協議会で地域の患者数や県内全体の医師配置などを考え、対応する形をとっています。

「救急当直が任せられる医師」を育てる

医学部教育はどのように変わっていきますか。

山下 重要なのは、どのような医師を育てていくのかということです。そのためにAJMCは2018年5月、卒前卒後のシームレスな医学教育の実現が必要として、診療参加型臨床実習の比重を高めるため学生が行う医行為を法的に担保したりすることなどを求め、日本医師会と合同で提言しました。

提言では、医学部卒前教育における学生の到達目標を「患者の全身を診ることができ、病態を理解し緊急対応を含め必要な措置が取れること」と定義しています。もちろんいろいろな医師のあり方はあっても構いませんが、医師である以上目の前で苦しんでいる患者さんに的確な対応ができなくてはなりません。完璧な救命処置を求めているわけではなく、救急の当直医を任せても大丈夫な医師を育てていくという大原則です。

入試はとても大事なことです。医師は卒業して



サイエンスとしての医療にも注目を

日本医事新報の読者には受験生のお子さんを持つ世代の医師も大勢いらっしゃいます。最後に、医学部を目指す学生と保護者の皆さんに向けたメッセージをお願いします。

山下 医師である親御さんの姿を見て、自分も同じ道を目指そうということは素晴らしい。ぜひ頑張っただけでいいですね。そこで大切なのは、「公共財としての医療」を支えていく意志と覚悟です。医師は大変な仕事ですが、患者さんに「ありがとう」と言われることが何よりも嬉しい、というメンタリティを持った人に医師を目指してもらいたいと思います。

一方で、日本の医療の強みの1つは、医師が基礎研究をしてきたことでした。最近では皆忙しく、へとへとで学位を取る人が減っており、非常に残念です。サポートする仕組みを考えなくてはいいかもしれませんが、生命科学を使って人類の役に立つ研究に取り組むというのとはとても夢のあることです。サイエンスとしての医療にもぜひ目を向けてほしいと思います。

未来へ、
医師を
とどける。

合格させてきた、実績が違う。指導してきた、歴史が違う。数字が物語る、野田クルゼの合格力。

1971年～2018年
医学部合格者数

3,594名

*1980年～2018年入試結果集計数値
*創立1971年～1979年の合格者数は正確性を欠く恐れがあるため、上記数値に含まれておりません。

2018年度も合格者多数

医学部完全合格 165名

国公立大医学部 20名
私立大医学部 145名

東京医科歯科大学 3名	東北大学 2名	千葉大学 2名	群馬大学 3名	慶應義塾大学 2名	東京慈恵会医科大学 8名
順天堂大学 16名	東京医科大学 10名	東京女子医科大学 9名	杏林大学 12名	北里大学 9名	聖マリアンナ大学 7名

野田クルゼが49年間続けている合格までの一貫指導。

医学部受験のエキスパート講師が

一人ひとりが「わかるまで」何度でも「つきっきり指導」で応える。

飛躍的に成績を伸ばす

こだわりの 少人数指導

医学部受験のエキスパート

主力講師陣は 超一流大学出身

生徒の「こころ」を支える

一人ひとりの 担任制度

野田クルゼ

[本校]

Tel. 03-3233-7311(代) Fax. 03-3233-7312
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台2-8 瀬川ビルディング5F

野田クルゼの最新情報はホームページでもご確認いただけます。

野田クルゼ

検索



医学部合格への必須科目 入試データの読み解き方

私立・国公立、全82校を網羅

医学部は少子化にもかかわらず高い人気を維持し、私立大医学部の倍率は20倍、30倍に上ることも珍しくない。東大と並ぶ大学受験の最難関を突破するには、志望校をできるだけ早く絞り込み、合格に向けた対策をスタートさせることが重要になる。そこでカギとなるのが、入試に関するさまざまなデータの分析。数字の背景を読み解くことで、狙い目の大学が浮かび上がってくることもある。独自のデータ分析に基づく指導に定評のある「東大螢雪会」の土井貴志教務部長に医学部入試データの読み解き方を伝授してもらおう。

●私立大学医学部医学科 2018年度一般入試結果および第112回医師国家試験合格状況

※1 下段()内は女子の数で、倍率を除き内数
 ※2 東京医大等については、追加合格発表前の数値

大学名	区分	2018年度一般入試結果							第112回医師国家試験(2018年)合格状況					
		募集人数	受験者数	1次合格者数	2次			倍率	新卒			既卒		
					正規合格者数①	繰上合格者数②	最終合格者数		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
岩手医科大	一般	90	3,253 (1,103)	656 (191)	135	51	186 (52)	17.5 (21.2)	131	107	81.7%	32	19	59.4%
東北医科薬科大	一般	100	1,673 (519)	600	100	127	227 (54)	7.4 (9.6)	—	—	—	—	—	—
自治医科大	一般	123	2,140	442	123	—	—	17.4	128	127	99.2%	0	0	—
獨協医科大	一般	58	1,602 (555)	338 (105)	96	54	150 (52)	10.7 (10.7)	122	102	83.6%	24	20	83.3%
国際医療福祉大	一般	105	2,442	581	222	—	—	11.0	—	—	—	—	—	—
埼玉医科大	一般(前期)	62	1,951	366	72	—	—	27.1	105	92	87.6%	28	24	85.7%
	一般(後期)	43	2,128	365	46	—	—	46.3						
杏林大	一般	91	2,742 (1,071)	—	145 (66)	—	—	18.9 (16.2)	123	121	98.4%	14	11	78.6%
慶應義塾大	一般	68	1,327	271	131	49	180 (35)	7.4	110	110	100.0%	6	2	33.3%
順天堂大	一般(A方式)	60	2,045	576	129	—	—	15.9	123	120	97.6%	5	4	80.0%
	一般(B方式)	10	298	53	10	0	10	29.8						
昭和大学	一般(I期)	78	3,308 (1,227)	550 (201)	249	23	272 (81)	12.2 (15.1)	101	101	100.0%	18	10	55.6%
	一般(II期)	20	1,865 (826)	115 (55)	24	14	38 (13)	49.1 (63.5)						
帝京大	一般	100	7,697	—	—	—	161	47.8	112	102	91.1%	27	15	55.6%
東京医科大	一般	75	2,614 (1,018)	451 (148)	75	96	171 (30)	15.3 (33.9)	104	101	97.1%	6	5	83.3%
東京慈恵会医科大	一般	110	1,845	500	165	103	268	6.9	115	112	97.4%	7	5	71.4%
東京女子医科大	一般	75	1,333	312	109	39	148	9.0	103	96	93.2%	12	10	83.3%
東邦大	一般	115	2,944 (1,269)	—	111 (54)	—	—	26.5 (23.5)	103	100	97.1%	6	5	83.3%

最終合格者数が公表されている大学の倍率（＝受験者数÷最終合格者数）は、慈恵医大が6・9倍と最も低く、金沢医大（後期）が89・2倍と最も高い。

慈恵医大については、倍率こそ最も低いものの、合格に必要な学力は慶應大に次いで高いとされており、倍率が低いから合格しやすいということにはならない。金沢医大（後期）については、募集人数が10名と少ない上に、それまでにどの大学にも合格できなかった受験生が敗者復活をかけてこぞって出願したため、超高倍率になったものと考えられる。また、学科試験が英語と数学のみであり、かつ数学については多くの受験生が嫌う数学Ⅲの範囲が出題されないということも大きな要因だろう。

受験者数が最も多いのは帝京大。その数は7697名と突出して多いが、これは「試験日自由選択制」という、一人の受験生が最大3回まで学科試験を受けることができ、2回以上受験した場合はそのうちの一番良い成績で合否が判定される入試制度を採用しており、志願者数が延べ人数であることによる（東海大も同様の制度を採用しているが、こちらは最大2回まで）。

▼**繰上合格者数は各校で基準が異なる**

なお、繰上合格者数については、各大学での取り扱いが異なっていることに注意が必要だ。補欠者のうち繰上合格の対象とされた受験生の数を繰上合格者数として公表する場合と、繰上合格の対象となつた受験生のうち、入学の意思を表明した受験生の数を

大学名	区分	2018年度一般入試結果						第112回医師国家試験(2018年)合格状況						
		募集人数	受験者数	1次合格者数	2次			倍率	新卒			既卒		
					正規合格者数①	繰上合格者数②	最終合格者数		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
日本大	一般(A方式)	92	3,483 (1,296)	—	—	—	173 (34)	20.1 (38.1)	111	107	96.4%	12	7	58.3%
	一般(N方式)	10	462 (175)	—	—	—	12 (2)	38.5 (87.5)						
日本医科大	一般(前期)	100	2,541 (916)	289 (93)	101 (30)	—	—	25.2 (30.5)	105	94	89.5%	22	17	77.3%
	一般(後期)	21	1,131 (436)	141 (61)	21 (10)	—	—	53.9 (43.6)						
北里大	一般	84	2,304 (898)	478 (172)	129	55	184 (70)	12.5 (12.8)	110	104	94.5%	8	6	75.0%
聖マリアンナ医科大	一般	85	3,095 (1,347)	517 (204)	130 (30)	—	—	23.8 (44.9)	102	98	96.1%	16	12	75.0%
東海大	一般	65	4,037	391	82	43	125	32.3	109	92	84.4%	21	18	85.7%
金沢医科大	一般(前期)	65	3,189 (1,116)	598 (223)	110 (50)	96	206	15.5	111	92	82.9%	20	13	65.0%
	一般(後期)	10	1,249 (526)	155 (56)	10 (5)	4	14	89.2						
愛知医科大	一般	65	1,875 (677)	402 (112)	160 (50)	58 (20)	218 (70)	8.6 (9.7)	108	103	95.4%	21	14	66.7%
藤田医科大	一般(前期)	90	1,953 (728)	372	223 (71)	30 (14)	253 (85)	7.7 (8.6)	108	99	91.7%	11	6	54.5%
	一般(後期)	5	689 (283)	62	5 (2)	7 (2)	12 (4)	57.4 (70.8)						
大阪医科大	一般(前期)	89	1,483 (523)	207 (64)	172 (58)	—	—	8.6 (9.0)	108	107	99.1%	26	18	69.2%
	一般(後期)	15	690 (252)	42 (11)	15 (3)	—	—	46.0 (84.0)						
関西医科大	一般(前期)	85	1,757 (651)	364 (142)	148 (59)	—	—	11.9 (11.0)	119	111	93.3%	21	17	81.0%
	一般(後期)	7	522 (220)	29 (9)	7 (1)	—	—	74.6 (220.0)						
近畿大	一般(前期)	65	1,570	241	125	—	—	12.6	102	97	95.1%	13	6	46.2%
	一般(後期)	5	580	29	9	—	—	64.4						
兵庫医科大	一般	80	1,979 (775)	436 (176)	110 (41)	92 (42)	202 (83)	9.8 (9.3)	107	104	97.2%	11	11	100.0%
川崎医科大	一般	60	1,409 (523)	404 (156)	—	—	—	—	109	97	89.0%	13	9	69.2%

繰上合格者数とする場合がある。すなわち前者で補欠順位10位までを繰上合格としたときは、繰上合格者数を10名であると公表するのに対し、後者の場合は100名のうち55名が入学の意思を表明したとすると、繰上合格者数は55名となる。そのため、実際の繰上合格者数がもう少し多い大学もあると考えられる。

また最終合格者数を公表していない大学でも、正規合格者数(最初の合格発表時に合格と判定された受験生の数)は通常公表するものであるが、川崎医大はそれすらも公表しておらず、倍率が不明となっている。ただし11~14年度入試までは最終合格者数を公表しており、倍率は7・0~12・4倍であった。

参考)第112回医師国家試験(2018年2月実施)
合格状況も掲載しているが、入試難易度が高いとされている大学の国家試験合格率が必ずしも高いわけではない。ごく一部の相当学力が高く、進学先を選ぶことのできる受験生を除き、ほとんどの受験生は各大学の国家試験合格率を意識して受験校を選ぶということはない。各大学の校風やカリキュラムを考えて出願することもない。特に、これ以上浪人できないと追い込まれている受験生は、各大学の試験日程と自らの学力を考慮して、できる限り多くの大学を受けることができるよう出願している。

▼不正入試問題の動向を注視する必要

現在行われている19年度入試、またそれ以降の入試の見通しであるが、一連の医学部不正入試問題の影響がどのようなものになるのか、まだはっきりとは見えないのが正直なところである。

大学名	区分	2018年度一般入試結果							第112回医師国家試験(2018年)合格状況					
		募集人数	受験者数	1次合格者数	2次			倍率	新卒			既卒		
					正規合格者数①	繰上合格者数②	最終合格者数		受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
福岡大	一般	70	2,608	379	125	19	144	18.1	100	83	83.0%	23	18	78.3%
久留米大	一般	85	1,871 (602)	394 (99)	137 (37)	31 (8)	168 (45)	11.1 (13.4)	104	86	82.7%	22	19	86.4%
産業医科大	一般	85	1,796	400	85	23	108	16.6	107	103	96.3%	8	6	75.0%

●国公立大学医学部医学科

※倍率は、二段階選抜が実施されたときは志願者数÷合格者数。されなかったときは受験者数÷合格者数

大学名	区分	2018年度一般入試結果						第112回医師国家試験(2018年)合格状況					
		募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	二段階選抜	新卒			既卒		
								受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
旭川医科大	一般(前期)	40	437	372	43	8.7	—	99	96	97.0%	10	6	60.0%
	一般(後期)	15	408	183	15	12.2	—						
北海道大	一般(前期)	97	341	322	102	3.2	—	124	111	89.5%	15	9	60.0%
弘前大	一般(前期)	65	534	461	65	7.1	—	135	125	92.6%	16	11	68.8%
東北大	一般(前期)	110	401	322	110	3.6	実施	126	122	96.8%	11	7	63.6%
秋田大	一般(前期)	55	400	209	56	7.1	実施	131	124	94.7%	13	8	61.5%
	一般(後期)	25	352	44	31	11.4	実施						
山形大	一般(前期)	75	332	284	75	3.8	—	132	123	93.2%	7	4	57.1%
	一般(後期)	15	165	55	17	3.2	—						
筑波大	一般(前期)	63	296	264	79	3.3	—	120	114	95.0%	2	1	50.0%
群馬大	一般(前期)	73	196	178	79	2.3	—	124	113	91.1%	13	7	53.8%
千葉大	一般(前期)	97	312	283	103	3.0	実施	100	95	95.0%	7	5	71.4%
	一般(後期)	20	367	76	20	18.4	実施						

文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室が発表した「医学部医学科の入学者選抜における公正確保等に係る緊急調査最終まとめ」によると、不適切な事案があると整理されている私立大学は、岩手医大、順天堂大、昭和医大、東京医大、日大、北里医大、金沢医大、福岡大の計8大学。このうち、東京医大は17、18年度入試の受験者から追加合格を行ったために19年度入試の募集人員を一般入試は従来75名であったところを34名に、センター試験利用入試は15名を12名に減員すると18年12月7日に公表した。他の大学においても追加合格等の対応を公表しているものの、文科省からの指導もあり、19年度入試では募集人員の減員は行われず、それ以降の入試で行われる見込みである。さらに、最終まとめには、「不適切である可能性が高い事案」として聖マリアンナ医大の事案、「疑惑を招きかねない事案」として9事案が指摘されており、今後も不適切な事案であったと認める大学が出てこないとも限らない。

このような動きを見て、受験生がどのように反応するかを正確に見通すことは難しい。19年度入試では募集人員が大幅に減員された東京医大に出願する受験生は減る可能性が高いが、医学部進学を希望する受験生そのものが大きく減ることはないだろう。差別があるのではないかと懸念して医学部受験を諦めていた受験生が再度挑戦することも考えられ、かえって志望者の数が増えることもありえるかもしれない。

いずれにせよ、今後も引き続き、不正入試問題に関する各大学の動向を注視する必要がある。

大学名	区分	2018年度一般入試結果						第112回医師国家試験(2018年)合格状況					
		募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	二段階選抜	新卒			既卒		
								受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
東京大	一般(前期)	97	450	378	98	4.6	実施	105	98	93.3%	15	10	66.7%
東京医科歯科大	一般(前期)	82	344	313	91	3.8	実施	102	99	97.1%	5	3	60.0%
	一般(後期)	10	174	25	12	14.5	実施						
新潟大	一般(前期)	85	387	326	92	3.5	—	127	120	94.5%	16	8	50.0%
富山大	一般(前期)	60	310	249	61	4.1	—	103	96	93.2%	10	5	50.0%
	一般(後期)	20	331	130	30	4.3	—						
金沢大	一般(前期)	84	356	255	86	4.1	実施	120	116	96.7%	5	4	80.0%
福井大	一般(前期)	55	223	184	58	3.2	—	116	106	91.4%	11	6	54.5%
	一般(後期)	25	466	80	26	17.9	実施						
山梨大	一般(後期)	90	1,256	338	104	12.1	実施	110	103	93.6%	13	10	76.9%
信州大	一般(前期)	100	482	411	107	3.8	—	109	106	97.2%	11	7	63.6%
岐阜大	一般(前期)	32	388	336	33	10.2	—	106	101	95.3%	16	11	68.8%
	一般(後期)	35	898	185	37	24.3	実施						
浜松医科大	一般(前期)	75	248	213	75	2.8	—	119	116	97.5%	6	4	66.7%
	一般(後期)	15	237	36	16	14.8	実施						
名古屋大	一般(前期)	90	285	263	95	2.8	—	112	109	97.3%	12	4	33.3%
	一般(後期)	5	53	10	5	10.6	実施						
三重大	一般(前期)	75	398	325	76	5.2	実施	127	123	96.9%	8	6	75.0%
	一般(後期)	10	159	34	10	15.9	実施						
滋賀医科大	一般(前期)	75	446	393	75	5.2	—	108	103	95.4%	18	14	77.8%
京都大	一般(前期)	102	333	320	106	3.1	実施	110	107	97.3%	9	4	44.4%

表中の合格者数は、繰上合格者を含む数値を示している。ただし、国公立は私立と異なり、繰上合格者数は極端に少なく、10名を超えることはまずないため、ほぼ正規合格者数と考えてよい。また、二段階選抜とは俗に「足切り」と呼ばれているもので、志願者数が各大学の設定している二段階選抜実施の条件を満たすことになった場合、センター試験の結果によって各大学の個別試験（いわゆる2次試験）を受けることのできる受験生を選抜するものである。

例えば、19年度入試において東大では、志願者数が募集人員(97名)の約3・5倍を超えた場合に実施することになっている。また二段階選抜を実施しない、つまり志願者は全員個別試験を受験することのできる大学は、鳥取大(前期・後期)、広島大(後期)のみである。

▼二段階選抜は「隔年現象」の傾向

二段階選抜については、東大や京大など毎年実施する大学がある一方で、一年おきに競争率が変動する「隔年現象」が起きて、二段階選抜を交互に実施する大学がある。17年度では二段階選抜を実施せず、18年度では実施した大学、すなわち19年度入試では二段階選抜が実施されない可能性が高いのは、秋田大(前期)、浜松医大(後期)、高知大(前期)、長崎大(前期)、鹿児島大(後期)。19年度で実施する可能性が高いのは、群馬大(前期)、富山大(後期)、福井大(前期)、信州大(前期)、熊本大(前期)、福島医大(前期)、和歌山医大(前期)である。

大学名	区分	2018年度一般入試結果					第112回医師国家試験(2018年)合格状況						
		募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	二段階選抜	新卒			既卒		
								受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
大阪大	一般(前期)	100	239	222	96	2.5	実施	121	113	93.4%	6	1	16.7%
神戸大	一般(前期)	92	290	257	92	3.2	実施	114	109	95.6%	14	8	57.1%
鳥取大	一般(前期)	65	567	511	65	7.9	—	99	96	97.0%	7	1	14.3%
	一般(後期)	20	375	170	20	8.5	—						
島根大	一般(前期)	62	376	334	63	5.3	—	113	104	92.0%	7	3	42.9%
岡山大	一般(前期)	98	295	277	103	2.7	—	112	110	98.2%	10	5	50.0%
広島大	一般(前期)	75	494	444	76	5.8	—	105	99	94.3%	8	5	62.5%
	一般(後期)	20	278	118	58	2.0	—						
山口大	一般(前期)	60	337	286	62	4.6	—	117	112	95.7%	16	9	56.3%
	一般(後期)	10	186	50	11	16.9	実施						
徳島大	一般(前期)	72	202	159	73	2.8	実施	108	98	90.7%	10	6	60.0%
香川大	一般(前期)	59	249	214	60	3.6	—	105	94	89.5%	13	10	76.9%
	一般(後期)	25	409	163	27	6.0	—						
愛媛大	一般(前期)	40	171	136	41	3.3	—	113	106	93.8%	13	11	84.6%
	一般(後期)	25	277	110	30	3.7	—						
高知大	一般(前期)	55	294	203	57	5.2	実施	104	99	95.2%	13	7	53.8%
九州大	一般(前期)	111	326	315	112	2.8	—	100	93	93.0%	9	5	55.6%
佐賀大	一般(前期)	50	292	227	50	4.5	—	94	90	95.7%	4	3	75.0%
	一般(後期)	10	280	31	11	25.5	実施						
長崎大	一般(前期)	76	518	349	88	5.9	実施	105	95	90.5%	10	6	60.0%
熊本大	一般(前期)	95	319	290	96	3.0	—	105	101	96.2%	20	11	55.0%

ただし、過去5カ年くらいの入試結果を見て出願校を決める受験生も少なくないため、必ずしも予想通りの結果になるとは限らない。

▼地方の国公立はAOや推薦枠が大きい

誌面の都合により割愛しているが、各大学の18年度の定員はほとんどの大学で110～120名程度。最も少ないのが横浜市立大の90名、最も多いのが筑波大の140名である。つまり地方の大学には、一般入試の募集人数が定員よりも相当少なくなっている大学があるということだ。例えば、旭川医大では定員17名に對し、一般入試の募集人員は前期40名、後期15名の計55名。残りの定員のほとんどは、AO入試や推薦入試で募集している。そのうちAO入試北海道特別選抜(募集人数37名)では、出願資格に北海道の高校出身であることや、原則として初期臨床研修を旭川医大病院で受け、将来は旭川医大が行う北海道の地域医療に貢献することを確約・確認する書面を提出すること、などの条件が設けられている。

不正入試問題は、国公立でも1つの事案が指摘された。それは、推薦入試(地域特別枠)における書類審査で、学生募集要項に明記せずに、地域に配慮した配点を行っていた、神戸大のケースである。とはいえ国公立であっても一連の問題による影響は小さくないという見方が濃厚だ。今回の表は1月時点で入手できる最新の2018年度入試のデータで作成しているが、現在行われている19年度入試の動向によって20年度以降の傾向がより明確になってくるであろう。

大学名	区分	2018年度一般入試結果						第112回医師国家試験(2018年)合格状況					
		募集人数	志願者数	受験者数	合格者数	倍率	二段階選抜	新卒			既卒		
								受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
大分大	一般(前期)	65	342	152	65	5.3	実施	111	106	95.5%	18	11	61.1%
宮崎大	一般(前期)	50	386	256	66	5.8	実施	120	107	89.2%	13	9	69.2%
	一般(後期)	20	376	60	22	17.1	実施						
鹿児島大	一般(前期)	69	328	293	70	4.2	—	113	108	95.6%	17	9	52.9%
	一般(後期)	23	284	51	25	11.4	実施						
琉球大	一般(前期)	70	437	319	71	6.2	実施	116	106	91.4%	13	9	69.2%
	一般(後期)	25	381	141	26	14.7	実施						
札幌医科大	一般(前期)	75	366	321	76	4.2	—	109	102	93.6%	10	9	90.0%
福島県立医科大	一般(前期)	67	311	265	76	3.5	—	99	97	98.0%	9	6	66.7%
	一般(後期)	23	328	97	24	13.7	実施						
横浜市立大	一般(前期)	85	286	242	92	3.1	実施	84	82	97.6%	3	3	100.0%
名古屋市立大	一般(前期)	70	599	529	74	7.1	—	93	89	95.7%	4	2	50.0%
京都府立医科大	一般(前期)	100	288	270	100	2.7	—	106	93	87.7%	14	9	64.3%
大阪市立大	一般(前期)	95	364	329	96	3.8	実施	96	93	96.9%	10	8	80.0%
奈良県立医科大	一般(前期)	22	201	167	22	7.6	—	107	106	99.1%	19	11	57.9%
	一般(後期)	53	929	336	59	15.7	実施						
和歌山県立医科大	一般(前期)	79	226	200	81	2.5	—	108	103	95.4%	7	6	85.7%
防衛医科大学校	一般	85	6,622	5,931	336	17.7	—	77	73	94.8%	13	7	53.8%

※データ提供：東大螢雪会

一人ひとりに合った受講スタイルを選べる 大阪医歯学院の「ぴったりピース」!

2019年度 受講スタイル案内

高卒生・再受験生I類 (医学部・歯学部)

あなたに最適な受講スタイルを
4つの中から選択できます。

■クラス・個別プラン

- コンピスタイル(クラス授業+個別指導)
- 全クラススタイル
※クラス授業定員各10名以内

■全個別プラン

- スタンダードスタイル
- プレミアムスタイル(「自分専用教室」を提供)

高卒生II類(薬・獣医学部)は、I類と別クラス・別授業です。

高校生・中学生 (医・歯・薬・獣医学部)

●高3生

あなたに最適な受講スタイルを
3つの中から選択できます。

- クラス授業+個別指導
- クラス授業
- 個別指導(レギュラーコース、集中コース)
- ※クラス授業定員は各10名以内。
1科目から受講できます。

●高2生、高1生、中学生

- 個別指導(レギュラーコース、集中コース)

合格へと導く充実の学習環境

一人ひとりに専用機を提供!

自習室に自分専用の学習機を提供します。テキストなども置いておけるので、ムダなく勉強を進めることができます。



質問しやすい学習環境!

専任講師がいるので、非常勤講師のみの予備校のように日時や時間が限定されることなく質問できます。

徹底した出欠管理

大阪医歯学院では、すべての授業で出欠チェックを徹底し、遅刻・欠席する場合には必ず連絡することを義務付けています。連絡のない場合は、通学生は自宅に、寮生は寮監・教職員による状況確認を行います。

三位一体のバックアップ体制

担任制

教科を指導する専任講師が担任を受け持ちます。成績や志望だけではなく、本人の性格も考慮した進路指導を行います。

生徒カウンセリング

定期として年4回実施。学習状況や生活習慣も含めて、目標に対しての具体的な対策を話し合います。

保護者会

定期として年3回実施。生徒の成績状況や、学習進度を報告し、「学院」「生徒」「家庭」の三位一体のサポート体制も実施します。

寮完備!!

~遠方からも多数入学~
朝食・夕食付き。
寮監・教職員による生活管理。
学院まで徒歩約10分。
全国より毎年約30~40名の生徒が寮生活を送っています。

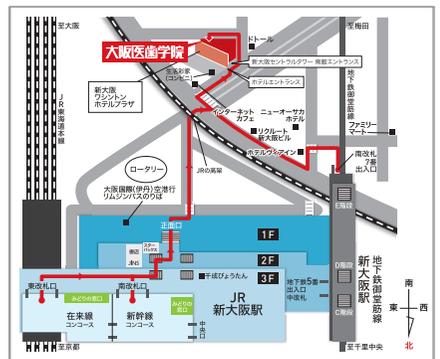


入学説明会

大阪医歯学院では
随時**入学説明会**を実施しています。
見学希望の方は希望日時を予約して
ください(土曜・日曜・祝日も可)。
※寮見学も同日に可能です。

新大阪駅
から
徒歩5分
以内!

通学に
最適な環境



あきらめない**夢**、始動。

医・歯・薬・獣医 専門予備校
大阪医歯学院

〒532-0011 大阪市淀川区西中島5丁目5-15
新大阪セントラルタワー南館1F
(新大阪ウィントホテルプラザ隣接)



[QRコード]

お問合せ・お申込みは右記まで

フリーダイヤル **0120-06-3759**
24時間受付FAX **06-6838-3757**
インターネット <http://www.isigakuin.ne.jp>
大阪医歯学院

【医学部 合格実績2017・2018年度】

合格39名

名古屋市立大学	1名	鳥取大学	1名
三重大学	1名	滋賀医科大学	1名
大阪医科大学	4名	関西医科大学	6名
近畿大学	2名	兵庫医科大学	8名
杏林大学	1名	帝京大学	1名
福岡大学	1名	久留米大学	1名
愛知医科大学	2名	藤田医科大学	5名
金沢医科大学	2名	岩手医科大学	1名
川崎医科大学	1名		

●1次試験のみの合格者は、含まれておりません。

入試資料 学部別提供

単に学力をつけるだけでは医学部入試は戦えない。
最新の情報と蓄積されたデータ。

それは、合格への大きな武器になる。

大阪医歯学院では、最新の入試情報・過去の入試データを独自に編集して作成した、学部別入試資料集(国公立版・私立版)を生徒に提供。知りたい情報を網羅しているので、大変便利です。また、入試資料集以外にも、小論文や面接など多彩なオリジナル資料を随時作成。リアルタイムで最新情報を発信し、受験指導に活用しています。



お問合せいただいた方には、
入試資料集を無料で進呈いたします!

匠が教える
医学部入試
傾向と対策

其の言

〈解説〉医学部専門予備校YMS（東京）

真の意味で「医師の資質を高める」

高難度化が進む医学部入試。その高いハードルを超えるには入試の最新傾向を把握した上での対策がカギとなる。難関を突破する秘訣とは――。多くの合格実績を誇る東西の医学部予備校が解説する。

過去問から始め、ゴールを先に知る

今や国公立私立を問わず、簡単に入れる医学部はどこにもない。そんな医学部に合格するための秘訣をお伝えしたい。

まず注意しなければならないのは、受験期間が実は1年もないということだ。4月中旬から学習を開始したとして、翌年の1月中旬には医学部入試がスタートするので、実質は9カ月足らず。まず初めにこのことを意識しておかないと当然時間が足りなくなる。したがって受験勉強できる期間が9カ月しかないことに注意した上で入試までの計画を立て、学習に取りかかることが重要である。

次に学習法で大事なポイントをお伝えする。一般的な受験生の学習パターンは、春から受験勉強を開始し、夏までに基本事項を一通り学習し、秋以降に過去問に手をつける。しかし、実はこれは効率が悪い。学習効率を劇的にアップさせる秘策は、過去問から始めることである。何ができるようにならなければいけないのかを先に知ること、その後の具体的な学習に反映でき、より効果的に成績を上げることが可能となる。ゴールを先に知ること、最短距

離を走ることができるのである。

受験期こそ学力伸長のチャンス

一通りの学習を習熟した医学部受験生が犯す最後の過ちは、受験期に学習をしなくなることであり、ひたすら翌日に備えるだけになってしまいう受験生が非常に多い。しかし、これでは最後の学力伸長の機会をみすみす逃すことになる。実は受験期こそ最も短期的に成績を伸ばすことができる期間なのである。

医学部入試では、異なる大学であっても、同一年度で似た問題が出題されることが各科目においてよく見られる。これは、各大学医学部が問題作成の際、他の大学医学部の最新の入試問題（すなわち前年度に出題された問題）を重点的に研究することからすると、当然であり偶然の現象ではない。この事実から鑑みれば、受験生にとって、先の日程で出題された医学部入試問題は、後の日程で実施される別の医学部入試の最良の対策問題になりうる。したがって、医学部受験生は、各入試が終了するや否や、信頼に値する解答速報を用い、しっかりと復習した上で残りの医学部入試に臨む必要がある。

このほか医学部入試が他学部と異なる点としては、面接や小論文などの二次試験が課されることが挙げられる。昨年から東京大でも面接が復活し、今や日本の医学部で面接試験を課さないのは九州大だけである。したがって、「二次対策」を行うことが医学部合格のカギとなる。

医学部入試の最新傾向の1つは、MMI (multiple mini interview) の導入である。MMIでは1つのテーマについて、受験生と試験官が対話形式の面接を行う。賛否両論あるテーマについて賛成か反対か、その理由を述べる形式やグラフを読み取り意見を述べる形式など多岐にわたる。慈恵医大、東邦大、藤田医大などが実施しており、今後MMI形式の面接が増えることが予想される。MMI形式の面接では、一般的な面接対策は通用しない。面接対策として準備した質問の答えを披露する機会が与えられないからだ。つまり一夜漬けの事前準備や小手先のテクニクは通じないのである。

医学部合格への極意とは

ではどうすればよいのか。YMSが考える医学部合格への極意を最後にお伝えする。それは、真の意

味で医師としての資質を高めることである。これは机上の受験勉強だけでは向上させることができないものであり、実際に自らが不足しているものを主体的に把握し、改善しようと行動に移す必要がある。すなわち、受験勉強以外の自主的な活動が重要になるといふことだ。

例えば自分の興味のあることを調査して自主研究を行ったり、今自分にできることを考えてボランティア活動に参加したり、他国を訪れて国際交流を自ら実行したりする中で、探求心や奉仕の精神、協調性などが育まれる。そのような経験を積むことで医師としての資質が培われ、人間的な成長も期待できる。このような経験は学習意欲へ繋がり、学力の向上をもたらすだけでなく、面接や小論文の中にも自然と滲み出てきて効果を発揮するようになる。これこそが究極の医学部受験対策である。

以上が医学部に合格するための秘訣であるが、これを生徒一人で行うのは困難である。手前味噌ではあるがYMSでは、このような対策を生徒と共に実施し、一人でも多くの受験生に医学部への道が開けるようサポートしている。

医学部合格の秘訣

- その1 受験期間は9カ月と意識せよ！
- その2 過去問から始めよ！
- その3 解答速報を用い復習せよ！
- その4 医師としての資質を高めよ！

匠が教える 医学部入試 傾向と対策

其の式

問題の長文化への対応がカギ

〈解説〉医学部進学予備校メビオ（大阪）

処理速度に加え処理精度を重視

高難度化を極める私立医学部入試において「いま受験生に求められている力」とは何であろうか？
こちらについて直近の出題傾向から分析してみたい。

私立、国立を問わず問題文の分量増加は全国的な流れになっている（特に英語と理科）。加えて、2020年度からの大学入学共通テストが導入されるため問題文の長文化傾向はさらに強まることが予想される。問題文の長文化というと真っ先に思い浮かぶのは英語だが（慈恵医大、日大医学部など）、実は理科の問題も長文化傾向が著しい（川崎医大など）。総じて長文への対応力として問われているのは、限られた時間内で大量の文字情報から必要な情報を取捨選択できるか、ということである。早い段階から日本語であれ、英語であれ、長文に触れて慣れておく必要がある。

早く正確なアウトプットの訓練を

私立の問題の分量は非常に多い。また、解答は記述形式からマーク形式や穴埋め形式へ移行する傾向が顕著である（特に英語、数学）。受験生の増加に

伴う採点作業の大幅増加を軽減するための措置という一面が強調されるが、より客観性を強化するという意図も汲み取らなければならない。

特に数学においてマーク形式や穴埋め形式では「部分点」が与えられないことが多い。日頃から「理解する」だけでなく、「理解したことを素早く正確にアウトプットする」訓練を積み重ねていくことが大切になる。

本質的な理解度を問う

問題の質も変わりつつある。従来は「教科書を暗記して知識を増やす」「解法を暗記して類似問題に当てはめる」といった勉強で医学部入試は十分対応できたが、徐々に通用しなくなってきた。例えば数学においては「基本定理、基本原理の証明」「公式の成り立ち」といった、受験数学で基礎の基礎となる部分をあえて記述させる出題もある（藤田医大、大阪医大）。また、理科においては「受験生にとって馴染みのない現象」からの出題が明らかに増えてきている。実は根本原理がしっかり理解できていれば難問ではないのだが、暗記に頼った勉強では全く太刀打ちできない。普段から教科書のコラム、

図録などを活用して「身の周りの現象がなぜ起きているのか」に興味を持ち、理解しようとする姿勢が求められる。

西日本の私立医学部出題傾向

入試問題のトレンドが変わりつつある中で、西日本には従来通りのオーソドックスな出題を続けている大学も少なくない。例えば、兵庫医大、川崎医大、福岡大医学部、久留米大医学部がそうである。その一方で関西医大はすべての科目において積極的に変えていこうという姿勢が感じられる。大阪医大、近畿大医学部も一部の科目で変化の兆しを感じられる。したがって、今後もしばらくは従来型の記述力向上の勉強に加えて、情報処理能力や本質論の理解力を向上させるような勉強も取り入れ、両面突破を狙いたいところだ。

入試問題や大学の動向は日々変化している。そこで表に主な西日本の私立医学部入試における傾向をまとめてみた。変化の渦中でとにかく受験生は最新の情報に振り回されやすい。ただ、独断や偏見は極めて危険である。

最短ルートで勝利を勝ち取るためにも、自分にとって最適な並走者や最適な指導者を見つけ、まずは第一歩を踏み出していただきたい。

表 西日本の主な私立医学部入試の傾向
特徴は①記述形式が多い、②難易度は適正化

🔴: 難化 ➡: 横ばい 🔵: 易化
A: 易 B: やや易 C: 標準 D: やや難 E: 難

	英語	数学	化学	生物	物理	
愛知医大	難易度	D ➡ D	D ➡ D	C ➡ C	D 🔵 C	
	形式	マーク式	記述式 (一部穴埋め)	記述式 (答えのみ)	記述式 (答えのみ)、穴埋め	
	出題傾向	2年前から全てマーク形式に変更	全問記述から一部穴埋めへ	問題数減少 (試験時間短縮による)	問題数減少 (試験時間短縮による)	
藤田医大	難易度	D ➡ D	D ➡ D	C ➡ C	D ➡ D	
	形式	マーク式+記述式	マーク式+記述式	記述式 (答えのみ)	記述式 (答えのみ)、一部論述	
	出題傾向	2年前から現在の形式に変更。記述量は大幅に増加			去年は極端に易化。毎年難易度に幅がある	計算ではなく思考力を問う問題の割合が増加
大阪医大	難易度	D ➡ D	D ➡ D	C ➡ C	D ➡ D	
	形式	記述式	記述式	記述式 (答えのみ)、一部論述	記述式、穴埋め	記述式 (答えのみ)、一部論述
	出題傾向	変化なし	変化なし	常に目新しい題材が出題	最新のトピックよりも古典的なこと。記述に文字制限がない	分量が多く問題の難易度も高め。処理力が必要
関西医大	難易度	C ➡ C	D ➡ D	D ➡ D	C 🔴 D	E 🔵 D
	形式	記述式だが記号解答が大半	穴埋め (一部記述)	穴埋め	記述式	記述式 (途中経過あり)
	出題傾向	変化あり	変化なし	リード文が生体関連であることが多い	近年、難易度が上昇。一行記述ができたのも特徴	高難度の出題が続いていたが、2018年度前期は解きやすい問題が増加
近畿大	難易度	C ➡ C	C 🔴 D	C 🔴 D	C 🔴 D	C ➡ C
	形式	マーク式	穴埋め、記述式	記述式 (計算過程を記す)	穴埋め、記述式	穴埋め、記述式 (答えのみ)
	出題傾向	後期試験の形式が前期試験と同様に変化した	変化なし	計算量が非常に多くなり、時間内に解くのが難しい傾向に	最新のトピックを扱うことがある	答えに至る過程を書かせる形式から、穴埋め完成式、答えのみの記述式が増加
兵庫医大	難易度	D 🔵 C	E 🔵 D	E 🔵 D	C 🔴 D	D 🔵 C
	形式	記述式	記述式	記述式 (答えのみ)、一部論述	記述式	記述式
	出題傾向	昨年度から分量が大幅に減少	変化なし	最近解きやすい問題が増加。それでもまだ難問が多い	記述の分量が非常に多い。選択問題も癖が強く取り組みにくい	標準的な問題が多くなってきている。ただ、分量が多いので処理力が必要
川崎医大	難易度	B ➡ B	C ➡ C	A 🔴 B	C ➡ C	C ➡ C
	形式	マーク式	マーク式	マーク式	マーク式	マーク式
	出題傾向	変化なし	変化なし	問題文の長文化が目立つ。内容は平易	考察力が必要な実験問題が出ることがあるが、難易度は標準	難易度の変化はあまりないが、現象を定性的に考えさせる問題が増加
久留米大	難易度	B ➡ B	C ➡ C	C ➡ C	C 🔴 D	B ➡ B
	形式	マーク式、一部記述式	穴埋め	記述式 (答えのみ)、一部論述	記述式	記述式 (答えのみ)
	出題傾向	会話問題が消えて長文内容一致問題に置き変わった	変化なし	変化なし	数学的な問題 (確率、数列) などの出題が度々見られる	変化なし
福岡大	難易度	A ➡ A	B 🔴 C	B 🔴 C	C ➡ C	B 🔴 C
	形式	記号穴埋め、記述式	穴埋め、記述式	記述式 (答えのみ)	記述式 (用語)	選択式、記述式 (答えのみ)
	出題傾向	ここ2年は文法問題において「当てはまらないもの」を選ばせる形式に変化	変化なし	知識問題から思考力を問う問題に中心がシフトしてきている	知識問題が多く、昔ながらのオーソドックスな問題が多い	思考力を問う問題が増加

わた ひき こう いち
綿引光一さん

杏林大学医学部1年次在籍
 海城高校卒



徹底した基礎固めが合格への近道です

「集団授業では成績が伸び悩みました」

父が医師なので、物心ついた頃から何となく医師になるのかなと思っていました。中学生になって、社会のレポート課題で医師について調べる機会があり、学んだことを直接仕事に生かし、かつそれを実感できる仕事であることに気づいて、「医師ってやっぱりいいな」と改めて感じました。

医学部受験に向けてちゃんと対策を始めたのは一浪目からです。高校時代は特に熱心に勉強することもなく、普通に友達と楽しみながら高校生活を送っていました。一浪目に通ったのは大手予備校です。でも僕にとっては大教室での講義が向いていなかったのか、成績向上につながりませんでした。講義は決められた通りのスケジュールで進んでいきます。分かっている部分はそれでもよいのですが、分からないところがあっても分からないまま進んでしまいます。そのまま放っておくこともできるので、できないところはそのままという状態でした。

また分かっているといっても、自分でそう感じているだけなので出来不出来に波がありました。典型問題としてただ解き方を覚えていただけで、少し変化球の問題が出てくると途端にできなくなる。根本的に理解していたわけではなかったのです。

習熟度に応じた勉強が重要

一浪目は少人数クラスの医系予備校でしたが、集団授業だと結局は同じようなカリキュラムを予定通り進めていくことになりました。自分にはあまり新鮮味がなく、この年も1次合格すら果たせませんでした。そして三浪目、「これが最後」と決めた年に赤門会を選びました。

一浪目の時、補習用に個別を入れようと体験授業を受けていたのですが、「個別は大変だ」と感じて申し込みをしませんでした。でも「もう後がない」となった時に、「ここで本腰を入れてやるしかない」と覚悟を決めました。赤門会では、主要4科目について授業内容の定着度を確認するテストが毎週あります。その結果を見ながら、できる分野については、あまり時間をかけずに演習中心に進め、問題ありのところは徹底的な基礎理解に十分な時間を割くなど、どの科目も習熟度に合った柔軟な進め方をしてくれるので、とても効率的に勉強できました。

僕の場合は化学が苦手だったので「コマ数を厚めにし、原理の理解など基礎固めに多くの時間をかけました。先生を質問攻めにして、可能な範囲で授業時間を延長させてもらうこともありました。物理に関しては、後期スタートの頃にはかなり伸びていたこともあり、時に先生と物理にまつわる雑談のようなものをした思い出があり

ます。いまの医学部の授業でも「これ赤門会で聞いた」とあるなという話題が結構あり、タメになっていると思います。個別指導ならではのエピソードですね。

個別指導なら質問がしやすい

受験生活を振り返ってみると、使い古された言葉かもしれませんが、「基礎の徹底」が合格への何よりの近道なのだと思います。赤門会では先生から「なんでこの答えになったの？」などと逆質問されることもたくさんありました。この質問には、基本的なことがしっかり理解できていないと答えられません。先生とのやりとりを通じて基礎をしっかりと固め、そのうちに応用問題にも対応できるようになったと感じています。みんなが口を揃えて「基礎が大事」というのは本当でした。

疑問点について納得するまで質問することも重要だと思えます。僕にとつて、個別指導の最大のメリットは質問しやすいことでした。最初は「毎日個別はハードだから、できれば避けたい」と思っていました。でも、「合格するには個別でしっかりやるしかないかも」と大手に通っていた途中から感じていたのも事実です。集団授業と個別指導ではそれぞれ人によって相性があると思います。もし集団でうまくいかないのなら、思い切って個別を一度試してみるのもおススメです。

学習方法を間違えているばかりに、合格できるはずの生徒が合格できないままになっているのが残念でなりません！

医学部人気が過熱する中、真摯に医学を志しながら、その道を踏み出せないでいる方を何とかして救済したい、その思いから私たちは2005年度に「医学部受験マンツーマン総合コース」(定員9名)を開設し、その後13年連続して医学部生を輩出してきました。(入会時の学力には一切制限を設けていません)

全授業をプロ講師によるマンツーマン形式で行う当コースには、例年、浪人を何年か重ねてしまった方が比較的多く入会されます。そのような方には、たいてい以下のような共通点が見られます。

- ① 授業の予習に追われて、復習が不十分になってしまう。
- ② 暗記に頼りがちになるなど、誤った学習法に陥ったままになってしまう。
- ③ 勘違いしていること、自分ではわかったつもりでも理解が不十分な事項が改善されず、そのままになってしまう。
- ④ 問題演習の絶対量が不足している。

こうした状況に陥っていた方たちを救済するために、赤門会では特に以下の2点を重視します。

- ◆ 講義・演習・質問応対と併せて、講師の側から生徒に発問することで、生徒が正しく理解しているか、既習事項が定着できているかを頻繁にチェックする。
- ◆ 生徒が授業を受けっぱなしにしないよう、各科目「定着度確認テスト」(60分)を毎週実施し、授業の習熟度を短いスパンでチェックしていく。問題があれば即対応する。

成果として、直近10年では在籍66名中30名が医学部進学を果たしました。30名中24名は前年度1次合格実績がなく、3名の再受験生を除くと、その方たちの浪人年数の平均は3.1です。

一般には年数をかけるほど学力上の伸びしろは少なくなってしまうがちです。それでも何浪しているのが、努力の仕方を改善することで得点力を伸ばすことは可能で、本番でその力を発揮すれば合格できることを前記の数字は立証しています。



合格体験記からの抜粋



植野 希さん
(茨城県・私立茨城高校卒)
進学先/愛知医科大学医学部医学科

私は計画を立てて勉強することが苦手だったので、とにかくやられたものをこなそうと決めて勉強していました。授業では、どの先生も私が理解できるまで教えてくださいました。また、自分では気づけなかった弱点を見抜き、それが克服されるまで、何度も何度も

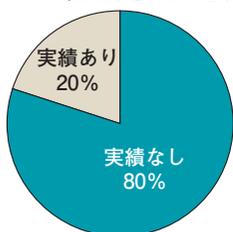


濱田 紘彰さん
(長野県・私立佐久長聖高校卒)
進学先/昭和大学医学部医学科

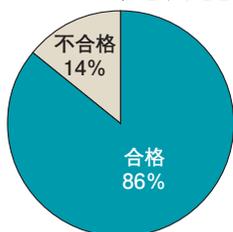
英語について、文法は先暗記で済ませている部分が多かったのですが、古庄先生からその弊害を指摘されました。先生からよく言われて自分でも重要だと思ったのが「品詞」と「動詞・他動詞の区別」に着目することです。これは、入試本番で悩んだときに一番役に立

直近10年の医学部合格状況に関するデータ

▶ 最終合格者の前年度1次合格実績の有無
(あり6名、なし24名)



▶ 前年度1次合格実績ありの方の最終合格状況
(7名中6名合格)



マンツーマン指導専門予備校



赤門会 since 1970
AKA MON KAI

東京都文京区本郷4-37-15
丸の内線・大江戸線「本郷三丁目」駅徒歩1分
<http://www.akamon-kai.co.jp>
E-mail: info@akamon-kai.co.jp

☎ 0120-002-412

資料請求・お問合せは今すぐお気軽に！

よしばゆみみえ
吉羽友美恵さん

山形大学医学部医学科2年次在籍
埼玉県立浦和第一女子高校卒



一緒に頑張ろうという予備校の雰囲気大きな支えになりました

「医師になりたい」は小さい頃からの夢

本当に小さい頃から「お医者さんになりたい」と思っていました。直接自分の手で人の命を救うというのは、何よりも素晴らしい仕事だと思っていたのです。よく小さい頃の夢は成長するにつれて変わってしまうと言いますが、私に関しては、ほかの職業に目を移すというのは一切なく、ひたすら医師への道を目指していました。

しかし、医師の仕事について本を読んだり調べたりするにつれて、責任の重さが徐々に分かってきました。かなりの重労働で長時間労働の職場も多いということも知り、「これは甘い仕事じゃないぞ。相当ハードだぞ」と思いました。だからといって他の職業は考えませんでした。むしろ以前よりも現実的に自分の将来を考えられるようになった、医師になるための心構えが（今でも全然足りませんが）少しずつできてきた、という感じです。

医師を目指す人には何より、「医師になるという揺るぎない決意」が必要ではないかと思えます。大学では、そうした固い決意を持つ人が周りに大勢いて、「やっぱりそういう気持ちで大事だよな」と、確信しています。

必要な学力を自分で納得することが大切

私が行った高校は、県内上位の公立高校だったのですが、みんな難関大学を目指していました。成績は、学年で真

ん中より少し上くらい。東大を目指す人や、医学部志望の人もいました。でも公立の伝統校なので、先生たちに

「勉強しろ」と強く言われたことはあまりありません。言われなくても「やらなくちゃ」とみんな感じていたので、「ある程度」から「すく」まで人によって違いはあっても勉強していました。思うんですけど、やっぱり「自主的に勉強に取り組む」ことが大事ではないでしょうか。人から言われてやらされた勉強では長続きしません。勉強へのモチベーション維持のためには、「自分は将来こうなりたい」、だから「このくらいの学力が必要なんだ」と自分で納得することが大事だと思います。

国立合格のカギはセンターの文系攻略

私の家は両親が医師ではない「普通の家」なので、国立しか選択肢がありませんでした。だから、「だから」と言っただけはいけません（合格するまで何年もかかりました。でも、センター試験で得点率85%以上というのは、そう簡単なことではないですよ。国語や地歴公民でも全受験生の平均をかなり上回らないといけないわけです。幸い私は国語がけっこう得意だったので、国語についてはそれほど時間をかけずに済みました。「国語と地歴公民でもしっかり点を稼ぐ」というのが国立合格へのポイントになると思います。

「親になるべく迷惑を掛けたくない」と一浪目はいわゆる「宅浪」でしたが、今考えると無駄な回り道でした。1人だけの勉強では、自分がどのくらいの学力レベルまで来たのかというのが分からないですよ。模擬試験を受けても日々の勉強の中で学力を把握できませんでした。

「目標を叶えるには人の助けが必要だ」と思いました

結局医学部専門予備校に入ったのですが、医学部を目指すという同じ目標を持った人たちと毎日共に勉強するのは大きなメリットです。それに私の通った医進塾は少人数制の授業だったので、すごく質問しやすかったし、先生たちも医学部の入試のことをよく分かっていたので、的確な指導を受けられたと思います。

志望校を決めるときには、受験生それぞれの各教科の得意不得意や問題との相性を踏まえて、アドバイスしてくれました。長い受験生活では悩みや不安を抱えることも多くありましたが、医進塾の先生や仲間と話すことでモチベーションを保つことができました。

やっぱり大きな目標を叶えるには、自分の力だけではなく人の助けが必要なんだと思います。医学部での勉強は大変ですが、将来多くの患者さんを助けることができる存在になりたいです。

目的は叶えてこそ意味がある

望みを叶えたい人を、力強く後押しします

● 超少人数制 レベル別授業

現在の学力に合わせた超少人数制の授業で、疑問・質問を明日に残さないシステムです。



● プロ講師による1対1の個別授業

集団授業以外に、「個別指導授業」のシステムもあり。弱点を克服し、長所をさらに伸ばす!



● 専有自習室

共有じゃない!「あなただけの専有ブース」で、他人を気にせず自習に打ち込みます。



● Study Check

講師付き自習時間。わからないところを自由に訊ける自習時間を豊富に用意しています。毎日、夜の9時まで実施。

● 年間240回以上のテスト

毎日の確認テスト+各月のメディカルテスト+年5回の全国模試で、学力確認・実戦力の増強をはかります。

● 夏と冬に合格合宿を実施

夏は前期の総復習、冬は入試に向けて最後の仕上げ・総点検で、得点力を伸ばし、合格を確実にする合宿。



● 適正な学費 信頼性の高さ

医進塾は、早稲田ゼミナールが運営する学校法人立の予備校です。当校は、医系予備校にも「適正な学費」があると考えます。いたずらに利益を求めることなく、適切な学費を設定しています。また、長年の実績によって高い信頼を得ています。「安心できる予備校」です。

学校説明会

1月26日(土)~3月31日(日)

● 上記の期間の土曜・日曜に「学校説明会」を開催します。

*注: 日によって医学部・獣医学部の別があります。
詳しい日程・時間は、医進塾HPをご覧ください。

● 予約定員制です。HPまたは電話にてご予約ください。

学校法人 湖南学園 専修学校 早稲田ゼミナール
国公立大・私立大 医・獣医専門予備校

医進塾

「医進塾」は、早稲田ゼミナールが所有する登録商標です。

＊合格者の声＊



西岡沙莉亜さん
東京女子医科大学・
埼玉医科大学 合格

「少人数制」の良さを
すぐ実感できました

医進塾の良さを一言でいえば、「少人数制をいかした面会見の良さ」だと思います。受験する各大学の必要な情報を提供してくれたり、一人ひとりのレベルに合わせた指導を受けることができたのは少人数制ならではだと思います。授業後も遅くまで先生が残ってくださって質問を受けてくれたり、熱心に教えて下さったりと、がんばる受験生を熱心に応援してくれる予備校でした。自分専用の自習ブースがあるのはとても魅力的でした。「自分だけのスペース」という感じで、落ち着いて勉強に集中できました。

現役と一浪目の二回受験に失敗したわたしが、二浪目で成績を伸ばし合格を掴みとれたのは、ユーモア溢れる先生方と、一緒に頑張った友達のおかげだと思います。ありがとうございました!!



梅村澄和君
自治医科大学・
東海大学 合格

医師への夢をあきら
めず本当によかった

現役時代に受けたセンター試験は、正直言うと、「お前、本当に医学部目指してるの?」と言われてもおかしくないほどの出来でした。浪人が決定した時、最悪、学部を変えることも考えました。しかし、医師になるのをあきらめきれず、ただ医学部だけを想って勉強しました。病は気からというように、才能も気からです。気持ちが強ければ、それはいつか、自分を成長させてくれると、浪人生活で学びました。医進塾は、少人数にもかかわらず、様々な性格の友達に恵まれます。1浪、多浪、現役にかわらず、教え、教わり、たまには遊び、切磋琢磨できます。浪人生活をする、勉強漬けになりすぎて精神を病んでしまいがちなことが多いのですが、医進塾は立地ももちろんよく、息抜きすぎることもなく、理想的な環境だと思います。医師、獣医師を目指している皆さん、自分が病院で働いている姿を想像しながら、それでもあくまで謙虚に、ひたおきに頑張ってください。応援しています!

お問い合せ

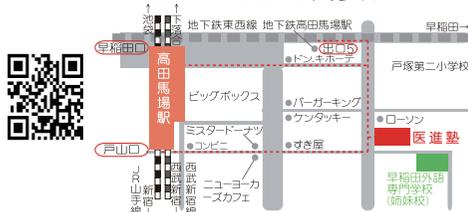
TEL:03-3205-4308

東京都新宿区高田馬場 1-24-13

(「高田馬場駅」(ビッグボックス側) 徒歩3分)

TEL: 03-3205-4308(医進塾直通)

03-3205-1621(代表)



脳科学に基づいた 演習主体の授業で合格に導く、 アットホームな 医学部予備校「クエスト」

医学部予備校としての歴史は十数年ながら、2018年度入試では延べ70人の医学部最終合格者を輩出し、注目を集めているのが、東京・新宿にある医学部&東大専門塾「クエスト」。生徒の「分かる」を「できる」に変えていく、脳科学や認知心理学に基づいた学習法とは一体どんなものなのか。その秘訣に迫る――。

医学部受験を知り尽くした講師陣

クエストは1993年、大手予備校出身の実力派講師が集まり開校した。数年は東大専門塾として東大を目指す受験生を対象に指導を行ってきた。開校当初から高い合格率を毎年達成したことで、受験生の能力を効率的に伸ばす指導法が評判を呼び、2003年からは医学部予備校の看板も掲げる。18年度の医学部最終合格者は延べ70人。在籍者は75人程度であることを考えると、驚異的な実績を誇る。

クエストの主な特徴は、①医学部受験を知り尽くした講師陣、②塾長による生徒・保護者へのアドバイス、③事務スタッフ・チューターへの手厚いケアの3つ。

授業は大手予備校出身で医学部受験に精通したベテラン講師陣が担当する。教科別にレベルを4つに分け、1クラス最大25人までの少人数制を導入。数学・英語・理科の基幹科目はさらに細分化し、分野ごとのクラス分けとなる。授業は対話を重視した演習主体のスタイルで、生徒の達成度を確認しながらカリキュラムを進めていく。

また1校舎のみのため生徒と講師の距離が近く、授業で分からないことがあればすぐに質問できる環境が用意されている。講師は生徒が質問を真に理解するまで付き合うだけでなく、その発展形にまで話を広げ、さらなる理解の向上を促す。クエスト講師陣の口癖は「生徒が分かったと言っているからが勝負」。画一的なマスプロ教育とは一線を画し、とことん個人と向きあうことで、「分かる」を「できる」にする

まで徹底的に鍛え上げていく指導法がクエスト流だ。

このほか、難関医学部受験や苦手克服への対応として、オプションで個別指導も用意している。個別指導は基幹科目に加え、国語、地理公民、面接、小論文も対象としている。個別指導と少人数制授業を組み合わせることで、きめ細やかな指導とモチベーションアップという両者のメリットを享受することができる。

塾長が生徒・保護者に直接アドバイス

クエストならではの特徴と言えるのが、長原正和塾長による面接・面談・指導（左写真）だ。長原塾長は開成高校から東大文工に入学し、卒業後に医師を目指して理系に再入学したという経歴の持ち主。自身の豊富な受験経験に基づくアドバイスは何よりも説得力がある。クエストでは、生徒全員が長原塾長による親子面接を経て入塾する形をとっている。長原塾長は面接のポイントについてこう語る。

「教育は医療と似ている部分があります。生徒1人1人にとってベストな方法を考えなくてはいいけません。そのためには現在の診断＝学習状況の把握が重要になるので、保護者の方も交えた面接を必ず実施するようにしています。その際には英語と数学の習熟度がカギになります。欠けているのはどこの



クエスト 3つの特色

●医学部受験を知り尽くした講師陣

大手予備校で長年ノウハウを蓄積してきたベテラン講師陣が授業を担当。授業方針は基本的な知識や解き方を徹底して身につけさせる、いわば正攻法。少人数制ならではの生徒1人1人に目が届きめ細やかな授業を通じ、質問にはとことん付きあうなど確実に「できる」ようになるまで講師陣が全力で指導する。

●塾長が生徒や保護者に直接アドバイス

クエストでは、塾長による親子面接を経て入塾。1年間責任を持って生徒を預かるために必要なプロセスと考えている。入塾後も定期的に塾長と生徒が面談し、学力の進捗状況を把握、学習計画を立案した上で総合的なアドバイスを行う。必要に応じて父母面談を実施するなど、生活面まで含めた話し合いの場を設け、受験生活に寄り添う。

●事務スタッフ・チューターの手厚いケア

アットホームな雰囲気大切に、気軽に何でも相談できる事務スタッフが受験生活をサポートする。チューターは現役医学部生が担当し、受験のアドバイスや医学部生活の話などを聞くことができる。年齢の近いチューターは心の支えになるとともに身近な目標としてモチベーションアップにもつながる。



一方、少人数制予備校にありがちな人間関係の悩みについても、気配りの利くスタッフがいつでも気軽に相談に乗るアットホームな雰囲気作りを心がけ、勉強に集中でき



**医学部&東大専門塾
クエスト**

〒160-0023
東京都新宿区西新宿7-23-13
クエストビル

☎ 03-5389-7727
<https://www.net-quest.jp/>

クエスト 医学部

塾長面談(無料) 随時実施
まずはお問い合わせください

かをしっかりと把握した上で、それぞれに適切な学習計画を立て、受験勉強のアドバイスを「行っていきます」入塾後も定期的に生徒と面談し、適宜学習計画を練り直す。保護者面談も年3回以上実施し、生徒の生活面まで含めた相談に乗っている。

小テストを繰り返し、手続き記憶を強化

小テストを何度も繰り返し演習主体の授業スタイルは、長原塾長が脳科学や認知心理学の知見を基に生み出したものだ。

「受験勉強においては潜在記憶、中でも『手続き記憶』が重要になります。問題を解くときにすっと手が動くような、いわゆる『身体が覚えている』という感覚です。手続き記憶を強化するために脳科学的なアプローチを学習方法に取り入れているので

す」(長原塾長)

例えば英単語の学習では、必須単語3000を3段階に分け、習熟度が低い生徒には最初の1000を徹底的に覚えさせる。確認テストを繰り返し、手続き記憶を強化する。これは数学も同様だという。

できなかった問題については、「エピソード記憶」化する。写真を撮影して貼り付けた「アルバム」と呼ばれるものを何度も見返す手法を取り入れ、同じ失敗を繰り返さないように工夫している。

受験生活を手厚くサポート

クエストでは地方から上京し、下宿して受験勉強に励んでいる生徒も多いことから、生活面でのサポートも重視している。80人弱の生徒数のため、講師陣だけでなく事務スタッフとも顔の見える関係が構築されている。

環境を整えている。

またクエスト卒業生から多く寄せられているのが「チューターが親身になってアドバイスをくれた」という声。チューターは現役医学部生で多くがクエストのOB・OG。年齢も生徒に近く、数年後の自分の姿として見ることもできる身近な目標といえる存在だ。チューターからは実体験に基づいた受験情報に加え、医学部での生活や勉強についての話を聞くこともできる。

長い受験生活では、成績が伸び悩んだりモチベーションが下がったりすることもある。そうした時、1人1人に向きあい、家族のような手厚いケアをしてくれる事務スタッフやチューターの存在は、とても重要になる。

「私自身も受験生活で色々な困難にぶつかりました。だからこそ彼らの悩みはよく理解できます。困った時はいつでも相談に乗れる環境がクエストにはあります。少人数制ならではのアットホームな雰囲気の中で、合理的な学習方法を通じ、生徒の能力を最大限に伸ばすサポートをしていきたいと考えています」(長原塾長)

東西のトップブランドが開く 医学部受験指導の新たな地平

YMSとメビオは業務提携を発表。教育コンテンツの共同開発を推進。

医学部専門予備校YMS(代々木メディカル進学舎)と医学部進学予備校メビオは、2018年11月に業務提携を発表しました。ともに40年近くにわたって医学部生を送り出してきた医学部予備校。業界に大きな衝撃が走りました。YMSとメビオの講師代表に、自校の特色や提携の意図を伺います。

特別対談

高橋 元

メビオ講師部部長。京大医学部卒業、情報学研究科修士課程修了。数学・物理担当。



医学部進学予備校
メビオ

業務提携

小柴 允利

YMS講師長。早稲田大学教育学部理学科生物学専修卒。生物担当。



医学部専門予備校
YMS
NEXT OF MEDICAL

小柴 YMSは東京・代々木に校舎を構え、1981年から38年にわたって医学部受験指導を行ってきました。1校舎あたりの合格実績では全国の医学部予備校の中でトップクラスです。

高橋 メビオは大阪の天満橋にあり、創設は1980年です。こちらも、YMSには及びませんが、1校舎からの合格実績ではトップクラスで、特に西日本の医学部受験指導に強いことで知られています。

——新しくできては消えていく医学部予備校も多
い中で、YMSとメビオがこれだけ長いあいだ実績
を積み重ねてきたのはなぜだと思われませんか。

小柴 日々地道にこつこつと教材作成や授業、生徒
指導をやってきたというだけだと思います。



高橋 メビオも同じで、目の前の生徒のために全力
投球というのを続けているうちに、気がついてみると
40年近くたっていたという感じです。ただ、講師の教
科力の高さは誇れる部分ではないかと思っています。
医学部入試は大学ごとに非常に個性的で、長年研究
をしていかなければ十分な指導ができません。大学
によって必要となる教科や配点も大幅に異なりま
すし、形式や難易度もバラバラです。記述式の大学

もあればマーク式の大学もあり、もちろん面接や小論文の比重、傾向もさまざまです。メビオの専任講師はみな自ら教材を作り、日々生徒を指導していますので、大学名を言われれば、教科・配点形式・難易度・対策で重要なポイントなど、すらすら説明できます。こうした頼りになるベテラン講師が1校舎に40人もいるというのは、ほかの予備校にはなかなかないことではないかと思っています。

小柴 講師の教科力についてはYMSも自慢で、たとえば、「医学部5G」というタイトルで、首都圏の難関私大医学部の入試対策本を刊行しています。



YMS刊行の「医学部5G」と、大学別入試予想教材

高橋 5Gとは？

小柴 首都圏の難関医学部5校(慶應・慈恵・順天・日医・昭和)のことです。

高橋 メビオでも医学部の過去問解説や大学ごとの対策教材・予想問題などは豊富に用意しています。

——ほかに予備校の特色として何がありますか。

小柴 ただ医学部入試を突破すればよいとは思って
おらず、YMSは「いい医者」を育てることを目標に
しています。そのため、たとえば医療現場での体験学
習や現役医師を招いての特別講座といった機会を多
数設けています。また、YMSでは通年で「医のアー

ト」という授業を開講しています。これは、現代医療が抱える問題点や医師としての人間のあり方などについて考えながら学んでいくといった授業で、医師の適性を伸ばすためのものです。こうした授業を日々行っている予備校はほかに聞いたことがありません。それから、YMSの生徒はこうした経験を積んでいますので、結果として医学部入試の小論文や面接でも毎年非常に高い成績を上げています。

高橋 メビオの特色は、学習面だけでなく生活面まで含めた手厚いサポート体制にあります。まず、校舎内に専用食堂があつて、希望者は食堂で朝昼晩と三食をとることができます。管理栄養士が常駐しており、味も栄養も抜群です。生徒が講師と食卓を囲んで団欒の場をもつといった予備校はなかなかないと思います。それから、メビオ生だけのための専用寮が三棟あります。どの寮も校舎から徒歩2分圏内にあつて、通学で無駄な時間をかける必要がありません。寮母も常駐しており、安心・安全な環境で勉強に集中できます。

——YMSとメビオの業務提携はどういった成果を狙ったものでしょうか。

小柴 両社とも医学部入試の解答速報を多数実施していますし、医大別の模擬試験も実施しています。これだけの数の解答速報や医大別模試を行っている予備校はほかになく、両社は現時点でも全国の医学部予備校の中で1位と2位だと思います。こうした部分でお互い協力すれば、医学部受験に向けた教材コンテンツや指導力の点で、間違いなく圧倒的な存在になります。

高橋 まずは解答速報や医大別模試で協力していきますが、ゆくゆくは大学別の対策教材であるとか、面接・小論文対策や医学部入試情報においても協力を進めていく予定です。たとえば、面接対策の指導を充実させるためには、その大学を受験した生徒からの聞き取りが重要になります。西日本の大学についてはメビオも相当の情報をもっていますが、首都圏の大学に強いYMSと協力できるのは非常に心強いですね。



——最後に、医学部受験生にメッセージをお願いします。

小柴 予備校選びは一生を左右する重要な機会です。納得のいくまでしっかりと検討して選んでください。YMSは真摯に医師を志す受験生を最大限応援します。

高橋 同感です。医学部入試は昔よりもずいぶん難しくなりました。一人で立ち向かうにはなかなか困難な世界です。自分が通う予定の校舎にどれだけの講師がいるか、どれだけの教材があるか、どれだけの仲間がいるか。よく見極めて選んでもらえればと思います。

——ありがとうございました。



〒151-0053
東京都渋谷区代々木1-37-14
☎03-3370-0410
<https://yms.ne.jp>



〒540-0033
大阪市中央区石町2-3-12
☎06-6946-0109
<https://www.mebio.co.jp>



メビオの大学別対策教材

入試解答速報(2018年)

●YMS実施対象校

大阪医科大学前期日程、杏林大学、近畿大学前期日程・後期日程、久留米大学、慶應義塾大学、順天堂大学、東海大学2月2日・2月3日、東京慈恵会医科大学、東京女子医科大学、東北医科薬科大学、昭和大学1期・2期、日本医科大学前期日程・後期日程、日本大学A方式

●メビオ実施対象校

大阪医科大学前期日程、大阪医科大学後期日程、川崎医科大学、近畿大学前期日程・後期日程、久留米大学、東海大学2月2日・2月3日、福岡大学

医大別模試(2018年)

●YMS実施対象校

杏林大学、順天堂大学、昭和大学1期・2期、聖マリアンナ医科大学、東京医科大学、東京慈恵会医科大学、東邦大学、日本医科大学、日本大学

●メビオ実施対象校

大阪医科大学、川崎医科大学、関西医科大学、近畿大学、久留米大学、兵庫医科大学、福岡大学



heart of medicine

医学部専門予備校

YMS

業務提携

医学部進学予備校

メビオ

医学部進学予備校メビオと、医学部専門予備校YMS(代々木メディカル進学舎)は業務提携を結びました。メビオは大阪天満橋、YMSは東京代々木に校舎を構え、ともに創設以来40年近くの長きにわたり、毎年多くの生徒を医学部へと送り出してきました。現在では、メビオ・YMSともに、1校舎あたりで見ると、全国の医学部予備校の中でトップクラスの合格実績をあげております。

YMS入会説明会

地区	日程	会場
東京	2.9(土) 10:00-11:30	YMS校舎 東京都渋谷区代々木 1-37-14
	2.10(日) 10:00-11:30	
	2.16(土) 10:00-11:30	
	2.21(木) 16:00-17:30	
	2.23(土) 14:00-15:30	
	2.24(日) 14:00-15:30	
	2.28(木) 16:00-17:30	
	3.3(日) 10:00-11:30	
	3.7(木) 16:00-17:30	
	3.9(土) 10:00-11:30	
	3.10(日) 10:00-11:30	
	3.14(木) 16:00-17:30	
	3.16(土) 10:00-11:30	
	3.17(日) 10:00-11:30	
	3.21(木) 16:00-17:30	
	3.23(土) 10:00-11:30	
3.24(日) 10:00-11:30		
3.30(土) 10:00-11:30		
3.31(日) 10:00-11:30		



入会説明会随時受付中。学校見学随時受付中。

メビオ入会説明会 13:00-15:00

地区	日程	会場
大阪	2.10(日)	大阪梅田ハービス PLAZA 5F 大阪市北区梅田2丁目5番25号5F
	2.24(日)	
	3.10(日)	
	3.17(日)	
	3.24(日)	
	2.17(日)	
3.3(日)	スイスホテル南海大阪 大阪市中央区難波5丁目1-60	
名古屋	3.3(日)	オフィスパーク名駅プレミアホール&会議室3F 愛知県名古屋市中村区名駅4丁目5番27号大一名駅ビル
	3.17(日)	
福岡	2.10(日)	英道館天神本館3号館 福岡市中央区渡辺通5丁目16-19
	2.17(日)	
	2.24(日)	
	3.3(日)	
	3.10(日)	
3.17(日)		

※「大阪」「名古屋」「福岡」無料体験授業を実施致します。無料体験授業をご希望の場合はお気軽にスタッフまで。

その他会場

東京	2.17(日)	ザ・プリンスさくらタワー東京 東京都港区高輪3丁目13-1
	3.3(日)	
神戸	3.10(日)	三宮研修センター4F 兵庫県神戸市中央区八幡通4丁目2-12 RIIビル
京都	2.24(日)	TKP京都四条烏丸会議室 京都市下京区柳馬場西入立売中之町104 井門四条ビル7F
広島	3.10(日)	TKPガーデンシティPREMIUM 広島駅前 広島市南区大須賀町13-9 ベルヴェオオフィス広島
岡山	2.24(日)	岡山コンベンションセンター 岡山県岡山市北区駅元町14-1 フォーラムシティビル
奈良	3.3(日)	アクティ奈良アドバンスルーム 奈良市高天町5-4オガタビル
和歌山	3.17(日)	ホテルアパローム紀の国 和歌山県和歌山市湊通3丁目1-2

詳しくはWEBやお電話で

日経新聞社主催 医学部予備校合同相談会

10:00-16:00

東京	秋葉原UDX 2.17(日) 東京都千代田区外神田 4丁目14-1 秋葉原UDX南ウィング	大阪	阪急グランドビル 2.24(日) 大阪市北区 角田町8番47号
----	---	----	--



医学部専門予備校

YMS

heart of medicine

☎ 03-3370-0410

https://yms.ne.jp

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-37-14

(代々木駅/JR山手線/中央・総武線/都営大江戸線)より徒歩2分)

医学部進学予備校

メビオ

☎ 06-6946-0109

https://www.mebio.co.jp

〒540-0033 大阪府大阪市中央区石町2-3-12

(天満橋駅(京阪/地下鉄谷町線)より徒歩3分)